

チームけせんの和 だより

2018
vol.21
12月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118

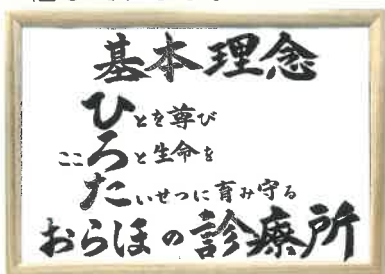
チームけせんの和に寄せて



陸前高田市国民健康保険広田診療所 診療所長 岩井直路

早いもので、私が陸前高田市国民健康保険広田診療所に着任して7か月余が経ちました。それまでは東京に隣接する千葉県松戸市の“福祉医療センター”の病院勤務医（院長）でしたので、診療所での仕事に対して不安はありました。しかし、地域包括ケアの中核としてリハビリ、緩和ケア、高齢者医療、在宅医療の後方支援、神経難病患者等のレスパイト入院などのために地域連携、多職種連携に力を注いでいたこともあり、陸前高田に来てあまり困ることもなく診療ができていくような気がします。もちろん「チームけせんの和」に関わる医療・介護関係の方々による温かいサポートがあつてのことです。

震災から7年半が経過しましたが、市街地をみる限りまだ復興半ばだと感じています。医療・介護においてはどうでしょう。地域包括ケアにおいて、前任地の松戸市と比べて勝るとも劣らないものがあると思います。それは「チームけせんの和」によるところが大きいと考えています。地域の医療・介護資源は限定的で、在宅医療を行なっている医師も少なく、厳しい状況であることは否めませんが、今後も地域の医療・介護関係者が連携し、行政や住民と、隣接する大船渡市、住田町とも相互協力して、変化・効率化もいとわず一緒に前に進んで行けば、これからの少子高齢化の厳しい状況も乗り切っていくのではないのでしょうか。私はそう信じています。



こんな思いになったのは劇団ばば☆のメンバーとしてDVD作成に関わってからのことです。忙しい中、多職種が集まり、一つの目標に向かって頑張って作り上げる、まさに「チーム」がありました。住民からの差入れを食べながら和気あいあいと会話をかわし、それぞれが個性を存分に発揮し、良いものを作っていき、そこに至るまでのプロセスを共有しながら、気持ちが一つになっていく時、“感動”さえ覚えました。こんな経験をしたことは今までありません。顔の見え

る関係・繋がり「輪」が「和」になって広がっていき、これから貴重な副産物をどんどん生んでいくことでしょう。“チームけせんの和”の取り組み、繋がり～パワーこそ、まさに「復興」そのものなのだと思います。

広田診療所の基本理念「ひとを尊び、こころと生命を、たいせつに育み守る おらほの診療所」を忘れずに、住民に愛され、必要とされる診療所をめざし、日々の診療を行っています。そんな思いもこめてロゴマークも作りました。基本理念で大切にしている Humanity, Heart, Health の3つの言葉を入れ、診療所前に植樹した梅の花を背景にしています。

これからも「チームけせんの和」の一員として、地域のために頑張っていけますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



チームけせんの和に寄せて

社会福祉法人 典人会 地域密着型介護老人福祉施設「陸前高田」 施設長 岡崎純也



平成24年9月に開所し、今年度で6年目となりました。陸前高田市に住所のある要介護と認定された方々29名がここで生活を送られております。施設はユニット型個室で、3つのユニットで形成されています。入居されている方々が長年慣れ親しんだ地域で、これからも共に生活していただくことが出来るよう各ユニット名には、「大町」「馬場前」「荒町」と陸前高田市の地名を使わせていただいております。居室は完全個室となっており、自宅で使用していた家具を持ち込み

頂くことで自宅に近い形で生活が送れるよう、また、個人の自由を尊重できるような作りとなっております。

また、併設事業所として短期入所生活介護（ショートステイ）「長砂」、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）は「氷上山」があります。

ショートステイでは10名、グループホームでは9名の方々がそれぞれ生活しています。施設内は家庭的な雰囲気を大切にし、季節を感じる事ができるような食事・行事の実施、入居されている方々が、それぞれの役割を持ち、慣れ親しんだ地域でいきいきと生活が送れるよう、入居者・ご家族に寄り添う介護を提供できるよう取り組みを行っています。気仙地区に古くから伝わる伝統料理を職員と一緒に作って食べて覚える。入居されている方々それぞれが先生、職員が生徒となり受け継がれていく。自然とそこに笑顔が見られる。そんな光景が日々の生活の中で垣間見られます。

天気の良い日は、市内をドライブしたり桜の季節には花見に出かけたり、自宅で生活をされていた時のように自由に生活していただく。入居者一人ひとりがその人らしく我が家で生活するような家庭的な生活空間を目指しています。

地域に見守られ、共存できる施設をめざしこれからも取り組んでまいりますので、今後ともご指導、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

また、地域交流スペース「なごみの広場」は一般の方々にも開放しております。地域住民の集会場、世代間交流の場、サークル活動等ご自由にお使いいただけます。いつでもお気軽にお立ち寄りください。



陸前高田市立図書館へ 劇団ばばば☆制作のDVD寄贈！

去る11月21日（水）チームけせんの和の大和田会長が、陸前高田市立図書館に出向き、劇団ばばば☆で制作したDVDの第1弾「塩を減らそう！」のDVDを3枚寄贈してきました。

ぜひこの機会に会員の皆様及び地域の方々と共にご覧になり、健康寿命を延ばしてもらえるようご活用下さい。

「グッジョブケセン2018」に参加して

気仙薬剤師会 気仙中央薬局 金野良則



平成30年8月12日(日)、青年会議所主催の「グッジョブケセン2018」に、出店しました。

気仙薬剤師会では「薬局での調剤業務体験」を行いました。参加者は子供用の白衣を着用し、処方せんの受付から、分包機を使用した粉薬の混合調剤、一包化調剤、シロップ剤の混合調剤、軟膏剤の混合調剤、そして模擬患者さんへの服薬指導と、薬局薬剤師の業務を楽しくも真剣に体験してもらいました。

全5回の体験で19名の参加者があり、薬剤師の指導のもと、正確な調剤とくすりの使用方法の説明により、普段飲むことのある薬がどのように調剤されているか、説明の重要性などを感じていただけたと思います。「くすり」は一見すればただの「モノ」ですが、人の身体に入り、健康の維持や病気を治す役割をする重要なものです。子供達に対して、薬への理解を深めていただくことができました。



気仙歯科医師会 吉田歯科医院 吉田重之

グッジョブケセンには市内の様々な事業所が参加しました。我々歯科医師のブースでは本格的に歯医者の仕事を見て、体験することができるように準備しました。歯医者体験をした子どもたちはみな目を輝かせ喜び、その様子を見ている大人もうれしくなるほどでした。約60名の参加者の中3人の子が将来歯医者になりたいとアンケートに記載していたようです。将来への期待感が高まり参加した甲斐があったことを実感しました。



チームけせんの和活動報告

平成30年9月7日(金)

平成30年度 第3回研修会

陸前高田市コミュニティホール (58名参加)

テーマ：がんと栄養の話

講師：岩手県立中央病院院長 宮田 剛先生



岩手県立中央病院院長・宮田剛氏による「がんと栄養の話」の講演会を開催しました。はじめに、「がん」は正常細胞の遺伝子情報に傷がついて増殖の制御が利かなくなったもので、自分の細胞からできるものであり、他者から感染するものではない事と基礎知識を話されました。

がん患者の特徴として、発生部位による症状の違いや、がんによる代謝状態の変化にも言及されました。栄養については、「筋力発揮、創傷治癒、生体機能維持、成長といった健全な生命活動に必要なもの」と定義され、疾患による障害、治療による影響などで栄養補給が妨げられてしまうことを説明しました。宮田先生は「You are what you eat (あなたはあなたの食べ物でできている)」という言葉を紹介されました。「当たり前的事だが、自分の手足は自分が食べたもので作られている」と考えると食事は大切な事だと分かる。適当なものを食べると適当な体になってしまう」と述べられました。又、末期癌患者への輸液についても触れ、現在は極力点滴をしない方法で本人の症状を楽にする方針が取られていることを伝えました。日本緩和医療学会のガイドラインを抜粋・要約し、輸液を行うメリット、行わないメリットをそれぞれ紹介され、「医療チームの判断による十分な情報提供のうえで、患者、家族の希望に基づき決定される必要がある」と解説されました。まとめとして、「緩和ケアでは、患者さんやご家族が“何を望むか”を十分に把握したうえでの対応が必要であるし、自分もどのように死にたいか、一度考えてみる必要があると思います」と話されました。

★劇団ばばば☆ 公演報告★

平成30年11月25日(日) 10時30分～

「転倒予防」@横田町一心会館



皆様、いつもお世話になっております劇団ばばば☆団長の佐々木です。今回は11月25日に横田町4区町内会ふれあい祭りから御招きがあり、そこでの公演の報告をさせていただきます。

横田町一心会館にて「転倒予防」の公演をしてきました。その日は日曜日という事もあり、団員が集まらず、専門職は実際の団員で演じるといういつものスタイルで行う事が出来ませんでした。しかし、元々「好ぎっけ」の集まりという事もあり、台本片手にではありますが、大成功に終わった！？と思います。

新年も依頼があれば、DVDを背にしょって「ばばば！」と叫ぶ次第ですので、皆様ご協力お願い致します。

なお、DVD制作の第2弾、「転倒予防」「健康長寿はお口から！」については、団員や関係者の皆様のご協力のもと撮影が終了し、現在は編集作業中です。完成をご期待下さい。

編集後記

平成30年最後の会報となりました！事務局として昨年より携わってきた中で、至らない点多々ありご迷惑をおかけしましたが、このように「チームけせんの和だより」として発行することが出来ましたのも、会員の皆様の大なるご理解とご協力があったからこそと心より感謝申し上げます。来年も会員の皆様にとって充実した年となりますようお祈り申し上げます。

(事務局 中野)